

# 事例研究報告

特別支援学校中学部生徒に対する  
1学級を単位としたソーシャルスキル  
トレーニングを取り入れた授業の  
実践について

## 学習グループの実態

- 語彙は少ないが全員音声言語によるやりとりができる。
- 他者と円滑なコミュニケーションを取ることに課題が共通している。
- 相手の方を見る，相手に聞こえる声で話す，目上の人に丁寧な言葉遣いをするといった，会話をする上での基本的なマナーを習得することが課題である。
- 友達に対して自発的にお礼の言葉を伝えることができていない。

## 教員の願い

- 教員や友達との適切な関わり方や，適切な言葉遣いを身につけてもらいたい。
- 教員の支援なしで他者と関わることができる機会を増やしてほしい。
- 他者に何かをしてもらったという感覚や，感謝する意識を高めてもらいたい。
- 将来，高等部卒業後，社会人として節度のある態度をとれるようになってほしい。

# 指導目標

他者から何かをしてもらった時、自発的に、3つのポイントを守って「ありがとう」と言うことができる。

(目上の人には「ありがとうございました」と丁寧な言葉遣いができる。)

## 【3つのポイント】

- 相手に聞こえる声で言う。
- 相手の方に体を向ける。
- 目上の人には丁寧な言葉で言う。

## アドバイザーからの助言

- なぜありがたいと言う必要があるのか，生徒の発達段階を考えると理解するのは難しい。教員がルールを提示し，望ましい形を整えて提示した方がよい。
- 相手の目を見るように指導したい時は，1回止まることを教えると体を向けることができる。
- 行動を般化したい時は，その場面に応じて手立てを変える必要がある。
- 生徒ごとに有効な手立ては異なるが，全員に共通してできる手立ては，日常生活に反映し，学年全体で統一した指導を行う必要がある。

# 助言を受けての見直し

アドバイザーの先生からの助言を受け、環境設定、指導の手続き、個別の手立ての見直しを行った。

## 【環境設定】

- 3つのポイント（相手に聞こえる声、相手に体を向ける、先生には「ありがとうございました」）を黒板に掲示しておく。
- 生徒の立ち位置に目印を置く。

## 【指導の手続き】

- （1） 教員はかならず前の長机にいる。
- （2） 生徒が連絡帳を持ってきたら○をつけ、「どうぞ」と言いながら生徒に返す。

# 個別の手立て

A・B

「ありがとうございました」が言えたらすぐによかった点を言語称賛して意欲を高める。

C

「ありがとう」と言った時は、黒板に掲示したポイントを指さし、「ありがとうございました」と言うよう促す。

D

立ち位置が分かるように目印を置いておく。  
指導初期に目印に立てないときは、指さしを行う。

# 指導場面

《指導場面①》 朝と帰りの日常生活の指導での  
連絡帳の受け渡し

ステップ1 毎日同じ教員が対応する。

ステップ2 ステップ1と別の教員が対応を  
行う。

《指導場面②》 国語のプリントの受け渡し

複数の教員が対応を行う。

# 指導場面とは別に、自立活動でSSTの学習を行い、 知識の定着を促した。

- 第1回 相手に聞こえる声で「ありがとう」と言おう（6月20日実施）
- 第2回 //（7月4日実施）
- 第3回 相手の目を見て「ありがとう」と言おう（7月9日実施）
- 第4回 相手に聞こえる声で、相手を見て「ありがとう」と言おう  
（9月18日実施）
- 第5回 色々な場面で言ってみよう（目上の人には「ありがとうございました」と言おう）  
（9月25日実施）
- 第6回 お接待をしよう（友達にありがとうを言おう）  
（1月10日実施）
- 第7回 //（1月17日実施）

# 記録方法と記録

連絡帳の受け渡し，国語のプリントの受け渡しの場面で，教員が次のように記録をとった。

- ・ 自発的にできた・・・○  
(C→黒板のポイントへの指さしありでも○)  
(D→足型への指さしありでも○)
- ・ 支援ありでできた・・・×

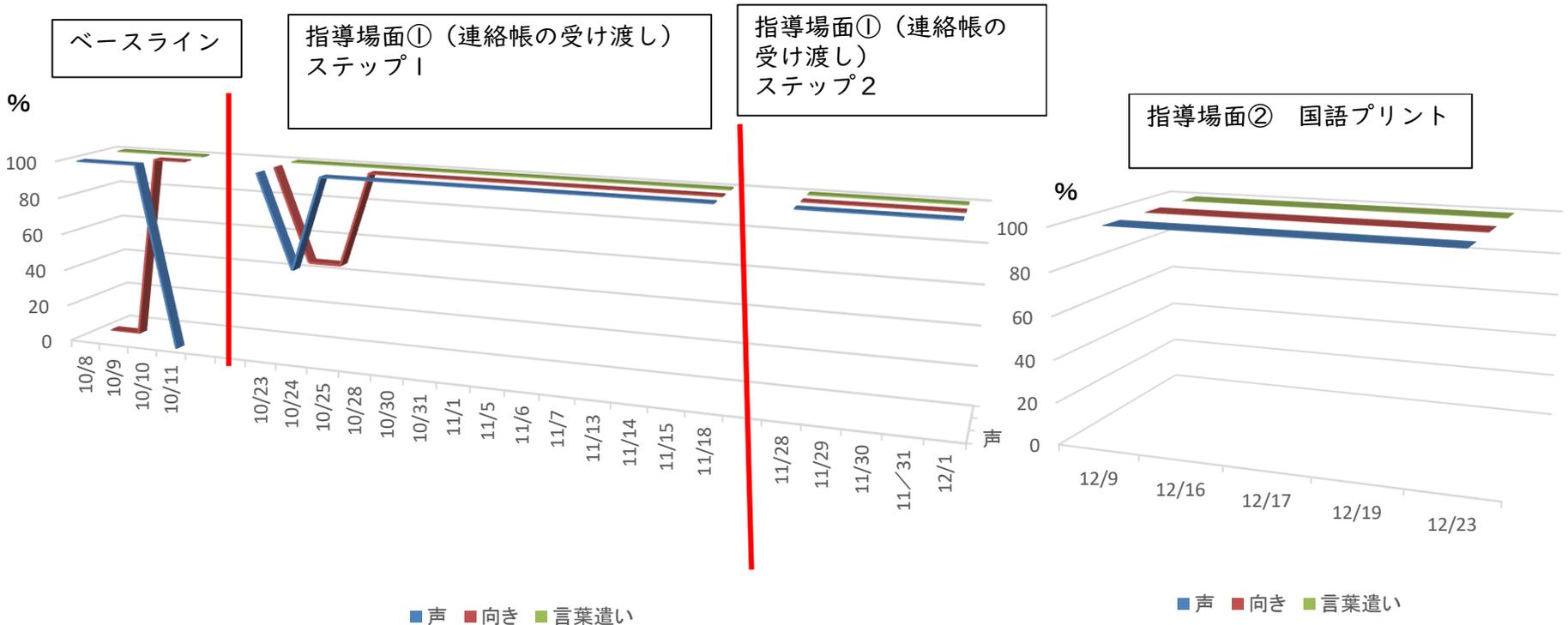
## 記録表

日付				
相手に聞こえる声で言えた				
相手に体を向けることができた				
先生には丁寧に言うことができた				

**【達成基準】** 3日連続100%言えた時目標達成とする。

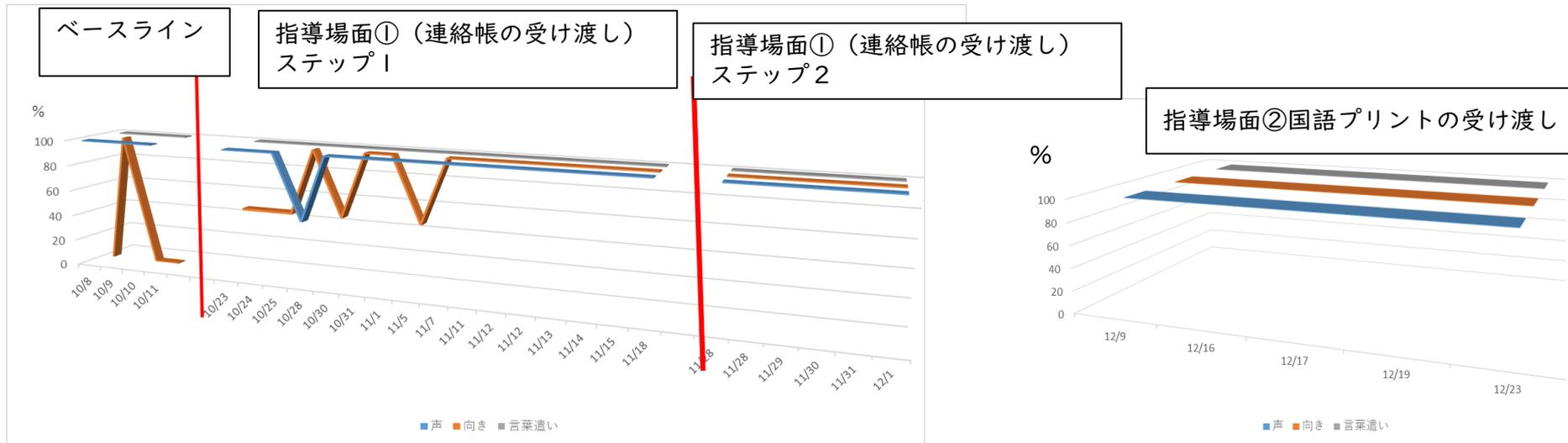
# 指導の成果

生徒A あいさつのポイントを掲示することで、  
ほぼ100%目標を達成することができた。



# 指導の成果

生徒 B      あいさつのポイントを掲示することで、  
ほぼ100%目標を達成することができ  
るようになった。



# 指導の成果

C児 あいさつのポイントを掲示することで、ほぼ100%目標を達成することができるようになった。クラス外の授業でも自発的に「ありがとうございました」と言うことができるようになった。

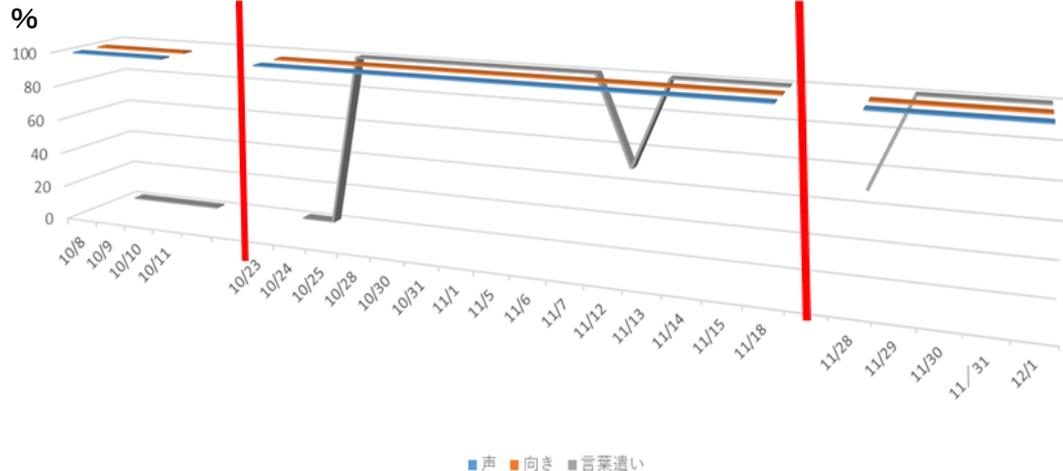
ベースライン

指導場面①（連絡帳の受け渡し）  
ステップ1

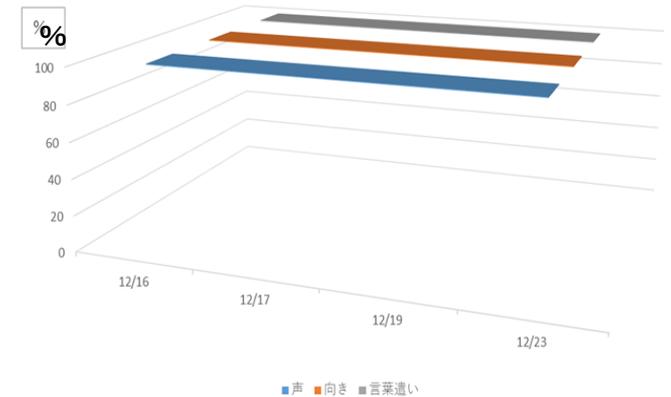
指導場面①（連絡帳の受け渡し）  
ステップ2

指導場面②国語のプリントの受け渡し

c (指導場面① 連絡帳の受け渡し)



c (指導場面② 国語プリントの受け渡し)

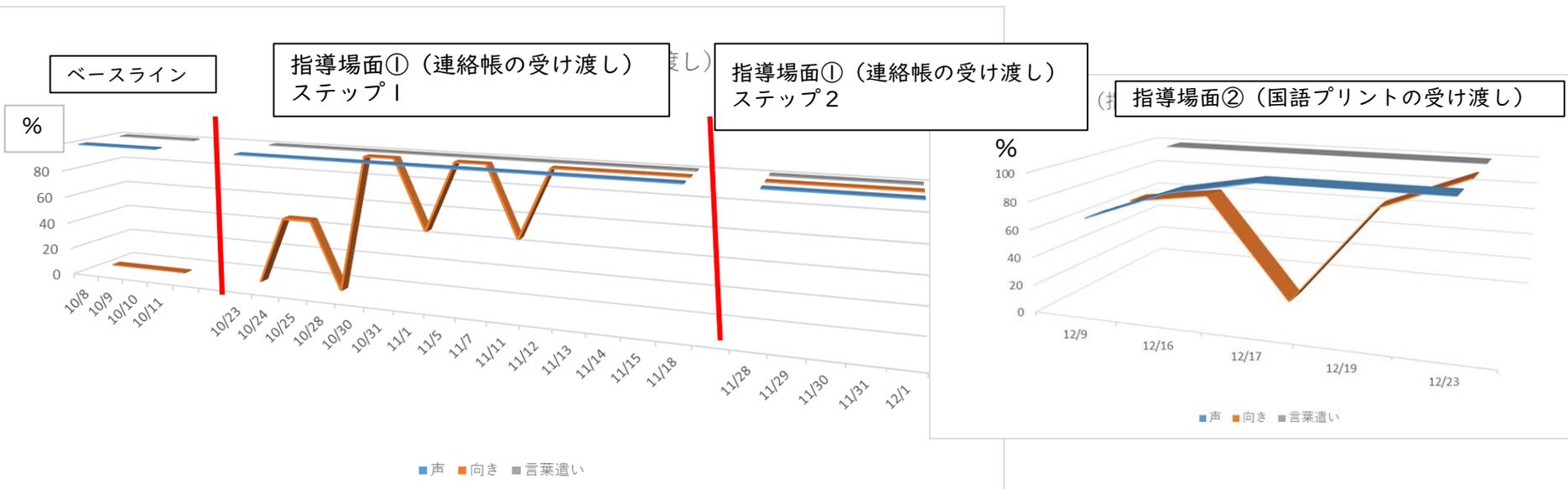


# 指導の成果

生徒D 足形を置き，立ち位置を定めることで，指導場面①において，ほぼ100%目標を達成することができるようになった。

指導場面②ではまだ定着していないので引き続き指導を行った。

※クラス外の授業でも，以前のように相手に体を向けず立ち去ることが減り，立ち止まってファイルを受け取ることができる回数が増えてきた。



# ここが成功のポイント

- ◆教員同士で共通理解を図ったことで、一貫した指導ができた。
- ◆個別に達成基準を設定したことで、一人一人に合った指導ができた。
- ◆教員や友達からの賞賛があることで、自信ややる気に繋がった。
- ◆足型や掲示物の用意、毎回統一された手順があることで、教員の支援がなくてもお礼を言うことができた。

# 今後の課題

- 今回の取り組みを，様々な場面で他のクラスや他学部に広げていく必要がある。  
〈指導場面の例〉  
プリントの配布，道具（ゼッケン等）の受け渡し，  
準備・片付けをしてくれた人へのお礼，  
iPad等の貸し借り
- SSTの学習を通して他のスキルも身につけていきたい。  
対教師：あいさつ，返事，体調を伝える，  
援助要求，敬語  
生徒同士：あいさつ，教えて等の援助要求，  
トラブルの対処（ごめんね等）